

平成 28 年度

# 「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立大和川中学校

平成 28 年 3 月

## 大阪市立大和川中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

**【視点 学力向上】**全国学力状況調査の「学校の規則を守っていますか」の項目で「当てはまる」(どちらかといえば当てはまる)を95%以上にする。を中期目標とした。27年度は、92.4%であった。また、「読書は好きですか」の項目は、全国平均の67.9%に比べ44.7%とかなり低く、50%以上を目指す。本を読む習慣を身につけさせ、授業規律を高め落ち着いた学習環境を目指す。

**【視点 道徳心 社会性の育成】**道徳の授業を要として、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。全国・学力状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で「当てはまる」95%以上を目指す。27年度は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」で92.4%であった。(全国:94%)

**【視点 健康・体力の保持増進】**体力調査においては、男子は全国平均に僅差の数値になってきた。女子は昨年度生徒比較では体力合計で上昇している。今年度は、すべての項目において全国を上回る取り組みを推進する。

**【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】**第3回大和川地域音楽フェスティバルを開催(12月23日)山之内小学校、遠里小野小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校の音楽関係の部活動等が本校に集まり開催されました。地域連合町会やゆうけい特別養護老人ホーム、保育所など多くの団体と連携し、300名を超える地域の参加がありました。今後、地域防災教育と連動し、地域の方と中学生の交流の場を拡大する取り組みへ発展させることが課題である。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

**【視点 学力向上】**全国学力調査の結果、国語では語彙の少なさが正答率を下げた。日々の長文教材で語彙数を増やし、全学年に朝読書をきっかけに読書量を増やす。また、全教科で課題学習の提示、定着を図る。

**【視点 道徳心 社会性の育成】**規範意識の向上と集団づくりの充実。道徳教育をすべての教員が実践し、進化・充実を図る。(大阪府中学校道徳大阪市大会 発表校 11月)

**【視点 健康・体力の保持増進】**体力調査における各項目の全国を上回る取り組みを実施。

**【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】**第4回大和川地域音楽フェスティバルの開催を通して、地域防災教育への連動する地域連携組織づくりへ発展させる。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

全般的によい方向に向いている。生徒の規範意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活が送られている。授業においても落ち着いた中で授業が成立している。アンケートからは先生方が特に2学期以降授業改善に取り組まれている様子がうかがえる。

しかし、家庭での学習習慣がない生徒が多く、学力向上にまでにはいたっていない。

「授業規律の確立と学力の向上は車の両輪である。」学校が学習の場としてきっちりと位置づけられると、学校へ来れない生徒も増えてくる(不登校生徒への対応)。学校へ学習をしに、登校してくる生徒の学力を向上させることができ、本校の課題として明らかになってきた。

そのためには、勉強したい、先生に教えてほしい等「心」を育てなければならない。

学力向上の取り組みを通じて、様々な課題の解決につなげたい。

数値では、「学校の規則を守っていますか 92.2%」目標(95)には届かないが、高い数値である。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか 93.0%」目標(95)には届いていないが、大阪府や全国を上回った。「読書が好きですか 42.6%」と低い状況である。

大阪市立大和川中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ I C T活用モデル校として、I C T活用授業を積極的に行い、生徒に理解しやすい楽しい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1, 2年生）における正答率を大阪市平均に近づける （カリキュラム改革関連）</li> <li>○ 学校教職員アンケート調査で「発表や話し合い活動など入れた授業を積極的に行っている」よくあてはまる、おおむねあてはまるを、前年度より向上させる。 【27年度56%】 （マネジメント改革関連）</li> <li>○ 全国・学力学習状況調査の「学校の授業以外の時間に家庭で全くしない（塾含む）」が13ポイントと高い。（全国より8ポイント高い）全国平均に近づける。 （カリキュラム改革関連）</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【習熟度別少人数授業の実施】</p> <p>国語・数学・英語の3教科では、授業内容、授業形態の工夫を含め、きめ細かな指導により、個に応じた学習指導を行う。定期テスト、実力テストで「知識理解、思考力、判断力、表現力など基盤となる評価項目に沿って問題を作成する。国語科では、漢字検定（1, 2年）を実施し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>指標 定期テスト等による系統立てた学力分析。 全国・学力学習状況調査プレ実施。 各教科の学習定着度の通過表などを通じて、学力実態の分析を行う。 朝学習の時間帯の有効活用（生徒集団の質向上） 1, 2年生 漢字検定 全員受験の取組実施（校長戦略予算）</p>	B
<p>取組内容②【I C T授業力向上のための研究授業及び教員相互参観の充実】</p> <p>・教員相互による授業方法を交流し、「発問の仕方」「学習規律」「課題の設定」など教師力の向上を図る。研究協議の充実を図り、明日につながる授業づくりに生かし、生徒へ「わかる授業づくり、魅力ある授業」を提供する。</p> <p>指標 アドバイスシートによる全教員相互参観 年3回実施。 研究授業および研究協議 年5回（全教員対象） 大阪府中学校道徳教育 大阪市大会（道徳）発表 授業アンケート「授業がよくわかる70%以上」 教職員アンケート「「発表や話し合いのなどを取り入れた授業を積極的行っている」60%以上。授業参観保護者アンケート参考</p>	A
<p>取組内容③【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】</p> <p>家庭学習習慣定着のための、各教科による日々の宿題の提示。週末には、課題学習の提示および点検。学習習慣の定着をめざす。学校元気アップ地域本部事業による自学自習</p>	

力確立への手立て提示する。

B

指標

日々、宿題 やりきり生徒数 100% (各教科担当等)

週末課題 やりきり生徒数 100% (各教科担当等)

朝学習会の時間帯が生徒の手で運営できるようにする。学級集団づくり学習意欲づくり  
長期休業中の課題設定 (各教科等) 及び学年別補充学習会の実施。

元気アップ地域本部事業（充実） 全校生徒の3割参加 (100名)

- 定期テスト前 放課後学習会 5回実施 1回 5日間
- 夏期・冬期 3年生 学力アップ集中講座 計10日間 実施
- 放課後学習会 2学期より実施 3年生
- 英語検定、希望者への学習会実施 (10日間)

家庭・地域への啓発 (学校・学年だより等) 年10回

取組内容④【 小中一貫教育の推進】

9年間を通して、めざす子ども像「場の応じたあいさつがしっかりできる児童・生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。

B

指標

連携行事 (中1情報交換、体験学習、部活動体験学習) 実施

体育大会 小学校6年生対象の体育大会見学実施

教職員研修 (生活指導、人権、英語、ピア・サポート研修等) 2回

教員相互授業参観の実施 3回

定例の校長部会 教頭部会 職員部会の開催 年8回

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校秩序の回復・維持・発展と学力向上の関連性は必然である。生徒アンケートより「時間を作る(89%)」「ルール・マナーを守る(94%)」と指導が浸透し、「楽しく学校生活を送っている(85%)」と安心して学校生活を送れる雰囲気がてきた。学力面では、授業規律の徹底を図り、分かる授業の創造に取り組んできたが、「授業はわかりやすい71%(27年度68%)」と改善はみられるが、まだまだ低い。

習熟度別学習の定着や学習サポーターの導入などきめ細かな指導に尽力した。また、1,2年生では漢字検定を実施した。週末課題、長期休業中の課題などで学習習慣の定着を図った。教員の相互参観や研究・公開授業は、充実しており、教員相互の授業力向上につながっている。

「発表や話し合いなどを取り入れた授業を積極的に行っている」の項目では、93%で目標(60%)を大きく上回った。また、学習習慣においては、「家庭で復習をしない31.3%(27年度34.1%)」「予習をしない43.5%(27年度37.9%)」など、改善もみられるがまだまだ高い。家庭学習習慣への啓発および学習への意欲向上を図る必要がある。

次年度への改善点

「授業規律の確立と学力の向上は車の両輪である。」授業が落ち着いた状況で実施できるようになってきた。次は、学力向上を図らなければならない。そのためには、勉強したい、先生に教えてほしい等「心」を育てなければならない。

①授業規律の確立と学力向上を図る取り組みを継続・発展させる。

②授業改善への取り組みを継続する。

・講義型の一斉授業から生徒の主体性を育てる多様な学習形態を取り入れる。

<p>I C T 機器の活用、習熟度別や T T 、学習サポーターの活用、 アクティブラーニング、協働的な学びなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めの目的(ねらい)の提示とまとめ</li> <li>・授業力向上に向けた、研究(公開)授業の実施</li> </ul> <p>③家庭学習習慣をつけさせるため、週末課題を継続し、指導の徹底を図る。</p> <p>④読書の推進を継続する。</p> <p>朝読書の全学年実施。図書館の週 7 回以上開館。</p> <p>⑤小中連携の推進を図る。</p> <p>⑦放課後、補習・自習室を開設する。(元気アップ事業との連携)</p> <p>⑧積極的な情報発信を行う。</p> <p>ホームページ・保護者メールの活用  「大和川だより」の発行  オープンスクール・参観授業の実施 等</p>
---

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道徳の授業を要として、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。全国・学力状況調査の「人の役に立つ人になりたいと思いますか」の項目で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を 9 3 % 以上にする。(全国と同じ) [ 2 7 年度] (カリキュラム改革関連)</li> <li>○ 生徒自らが学校のルールを守る姿勢を身につけ、目的意識をしっかりとった教育活動を推進する。全国・学力状況調査の「学校の規則を守っていますか」の項目で「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」を 9 5 % 以上にする ([ 2 7 年度]) (カリキュラム改革関連)</li> <li>○ 社会的・職業的自立に向けて、発達段階に応じて体系的・系統的なキャリア教育に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 道徳教育の推進 】</p> <p>道徳教育委員会を中心に年間指導計画・読みの教材指導案を作成する。  生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、これから生き方にどういかしていくか」という課題設定で実践を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>大阪府中学校道徳教育研究発表会「大阪市大会」研究発校 (全学年) 11 月 9 日  道徳授業 (読みの教材活用 各学年 20 本の実践、合計 60 本)  土曜参観で道徳の公開授業実施 (11 月、 2 月)  校内道徳研修会 4 回実施 校内自主道徳研修会 5 回実施  道徳通信を 1 か月に 1 回 発行する。(保護者・地域啓発) (ホームページに掲載)</p>	
取組内容②【 規範意識の向上 】	

- ・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。
- ・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施

B

**指標**

- 登校遅刻ゼロの達成
- チャイム着席の定着
- 正しい服装の着こなしの徹底
- 生徒会中心による「学校生活充実のための討論会」の実施
- 生徒理解を深める 「生徒指導研修会」実施 5月
- 生徒理解を深める 「教育相談活動」年2回 随時
- 体罰ゼロの教育活動を推進する**

**取組内容③【 キャリア教育の推進 】**

キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。

B

**指標**

- 高校出前授業、進路講話（3年）職業について（2年）仕事しらべ等（1年）実施

**取組内容④【 防災教育の推進 】**

「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。

B

**指標**

火災、震災訓練の実施。地域別下校訓練。消防署による防災訓練（2年生）地域防災訓練へ参加。小中連携の一環として校下小学校と連携して地域別下校訓練を実施する。

**取組内容⑤【 不登校傾向生徒への対応 】**

- ・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、生徒の心の変化を早期に把握し、個別支援の具体的な手立てを講じる。
- 生徒支援指導員を中心に日常的にサポート体制を作成しきめ細かな指導を進める。
- ・スクールカウンセラーを活用した、心のケアが必要な生徒への別室対応の充実

B

**指標**

- 週1回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認
- 月1回 全教職員と状況把握
- カウンセリング週間の実施（年2回）
- 心のケアが必要な生徒の学校生活保障。

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

1月実施の生徒・保護者アンケートより生徒：「学校的ルールやマナーを守っている94%」「時間を守って学校生活を送っている89%」「楽しく学校生活を送っている85%」である。保護者：「お子さんは、楽しく充実した学校生活を送っている84%（昨年度75%）」である。

アンケート結果から、学校の学習環境が安定し、基本的な生活習慣の確立に向けての取組に成果が表れている。

①道徳教育では、各学年20本の読み物教材を活用した授業を展開している。授業では、自

<p>分の考え方や人の発表を聞いて、人間としての生き方を学ぶ機会として継続している。</p> <p>「人の役に立つ人間になりたい」「学校のルールを守る」全国平均を上回る。</p> <p>②「登校遅刻ゼロ」の取り組みは、25分登校がほぼできてきている。20分ごろから校門まで走って登校する生徒の姿は、学校改善が進んできた成果である。一方、遅刻生徒の固定化が見られる。</p> <p>③防災教育では、火災と震災を想定した避難訓練の実施。町会別下校訓練も実施。また地域防災訓練に参加した。災害時の適切な動きを身につけることはもちろん、災害時に地域で活躍できる生徒の育成を目指し、防災の担い手としての意識向上を図った。</p> <p>④不登校生徒への対応は、生活指導支援員の配置により、別室で学習する生徒への対応の充実を図った。多様な対応が必要な生徒へは、主任会で細かい指導体制の確立を図った。</p>
---

#### 次年度への改善点

学校改善の方策は、学校（教職員）が意図的に、生徒自らが主体的に、学校生活をより良いものに改善していくこうとするところに、魅力ある学校へと変革させることができる。その素地ができてきている。生徒が主体的に様々な学びを価値的に創造できる教育内容を推進していく。

- ①道徳の教科化に向け、大阪市の道徳を牽引すべく道徳教育を継続する。
- ②道徳教育をはじめ、すべての教育活動で規範意識を高め、人に対する思いやりのある生徒の育成に努める。
  - ・1年：性教育や車いす体験学習
  - ・生活指導：1年 薬物乱用防止教室（薬剤師）
    - 2年 喫煙等防犯教室（警察）
    - 3年 薬物等防犯教室（警察）
    - スマホ・携帯・インターネット・SNS等使い方指導
  - ・ほんもの体験：「夢・授業」「芸術鑑賞」等
  - ・総合的な学習の時間の活用・土曜授業のあり方
- ③目的意識、学習意欲を高めるため、キャリア教育の充実を図る。
  - ・次年度より職場体験を実施に向けて取り組む（平成30年度2年で実施）。
- ④防災教育を意識し、いざという時に、敏速にかつ地域連携できる生徒の育成を図る。
- ⑤個別支援の必要な生徒（不登校・個別対応をする生徒等）に対する個別指導計画の作成・充実を図る。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 28年度には、基礎体力の向上を目指し、全国体力・運動能力、運動習慣調査の各種目の結果を大阪市平均以上にする。 (カリキュラム改革関連)</li> <li>○ 全国・学力状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目で毎日食べているを大阪市平均以上にする（88%以上にする） (カリキュラム改革関連) B</li> <li>○ 子どもの発達段階に応じて、健康に関する正しい知識等が身につくように取り組む (カリキュラム改革関連)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【 体力向上の推進 】</b> 基礎体力の向上を目指し、全国体力・運動能力、運動習慣調査では、体力合計点を全国平均以上にする。(1 ポイント) 特に「長座体前屈」「立ち幅とび」を重点項目にする。	A
<b>指標</b> 「長座体前屈」「50M走」「立ち幅とび」の項目を昨年度より増加。(大阪市平均を上回る)	
<b>取組内容②【 食育の推進 】</b> 食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める	A
<b>指標</b> 食育通信の発行 10回 小中連携した食育推進連絡を行う(年3回) 長期休業中 食育調査を行う(2回)	
<b>取組内容③【 健康に関する指導の推進 】</b> 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	B
<b>指標</b> 学級活動、保健体育 総合の時間を活用して、薬物 飲酒、喫煙に関する 学習会を行う (全学年 3回) [外部指導者を含む]	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男子は体力合計点で大阪市・全国を超した。女子は大阪市を超し、全国に僅差の数値となっている。 学校生活全般において、目的意識を持ち取り組む素地づくりを保健体育の授業内で取り組んでいる。その成果として、何事においても真摯に取り組む姿勢が身に付きつつあり、このことが基礎体力の向上につながったと思われる。 ○給食指導を通して、食育を実施。「食育通信」を毎月発行できた。 保健委員が住吉区保健委員会主催の食育教育を受講した。 1年生で外部講師を招き、食育授業を家庭科で行った。 ○「薬物防止教室」薬剤師と連携して実施した。	
次年度への改善点	
今後も、全ての教科・領域等の教育活動を通じて、あたりまえのことをあたりまえに取り組むことのできる態度を育成する。 保護者に対し食育への意識変革及び基本的生活習慣の定着など家庭教育の更なる啓発を図る。 給食指導を通じて、食育を推進する。	

年度目標	達成状況
<p>【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】  「地域まるごと なかよしプロジェクト」継続。  大和川中学校、遠里小野小学校、山之内小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校、ゆうけい（特別養護施設）を含む関連組織（はぐくみネット、学校元気アップ、連合町会）と連携し、音楽、防災を中心に「地域教育コミュニティ」を推進し、音楽行事を年1回、 地域拡大防災訓練を年1回行う。 (マネジメント改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【地域防災訓練・大和川清掃への生徒参加】  防災教育の一環として、地域防災訓練に参加する。大和川清掃活動を通して、地域と郷土を愛する心を育てる。</p>	A
<p>指標  各連合町会主催 防災訓練に生徒 100名参加させる  地域大和川清掃 4回 実施する</p>	
<p>取組内容②【 地域 音楽祭の開催 】  大和川中学校、遠里小野小学校、山之内小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校、ゆうけい（特別養護施設）を含む関連組織と連携会議を開催する。</p>	A
<p>指標  各校、組織の音楽関係（吹奏楽部）の部等による音楽祭を開催する。地域参加者 500名予定（12月）</p>	
<p>取組内容③【 学校・地域連携組織の確立 】  地域関連行事を把握し、組織的に教職員、生徒の参加を行い、地域連携を進める。</p>	A
<p>指標  年間 地域行事に10回参加する（教職員、生徒）  （敬老大会、夏祭、地域運動会、防災訓練、クリスマス会等）</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>第4回 大和川地域音楽フェスティバルの開催【平成28年12月23日（祝）場所：大和川中学校体育館】5団体の児童・生徒のつながりを深める取組として、駅前ビラ配布、個別宅ビラ配布を数回、高校生と中学生が一緒に配布し、周知活動を行った。また、当日の運営司会を中学校の生徒会が行い、児童・生徒の手による地域貢献の取り組みへ更に一步踏み出すことができた。</p> <p>当日は、区政だよりや配布ビラを見て参加していただいた方や昨年度も来校いただいた方など300名を超える地域の方々の参加がありました。</p> <p>大和川中学校（吹奏楽部、ギター部）遠里小野小学校（おりおのジュニアバンド、お琴演奏）建国中高等学校（吹奏楽部）浪速中高等学校（吹奏楽部）府立視覚特別支援学校（高等部）の120名の音楽関係の部活動の参加。</p>

### 防災拠点となる学校づくりと 生徒が地域防災の担い手となる人づくり

地域防災教育を推進する行政組織と連携し、地域コミュニティ組織の活性化といざといざときの心構えを意識した防災訓練等の実施に向けて取り組みを実施した。

- 山之内地域運動会に吹奏楽部が参加 5月
- 地域町会別 震災下校訓練 7月
- 地域連携行事参加 9月（敬老会演奏、地域運動会、地域まつり）【延べ100名】
- 住吉区総合防災訓練に土曜授業として参加 12月
- 火災発生 避難訓練 12月
- 大和川地域音楽フェスティバル（本校 体育館 12月 【300名超】
- 大和川地域クリーンキャンペーン 3月

#### 次年度への改善点

今後、「顔の見える地域の輪の拡大と防災での連携を意識した取組を視野に入れ、ゆうけい（特別養護老人施設）地域連合町会、はぐくみネット、学校元気アップ地域本部と地域教育コミュニティを総結集し、地域総合防災連携組織づくりへ発展させていく事業にする。「災害に強い町づくり」にむけて地域防災訓練への生徒の積極的な参加による地域の担い手としての中学生のあり方を区行政、町会組織と連動して作り上げる。

災害時を想定した地域防災訓練の実施。また生徒が地域別防災訓練への担い手となる取組みへの企画・運営など地域密着の生徒育成の充実を図る。